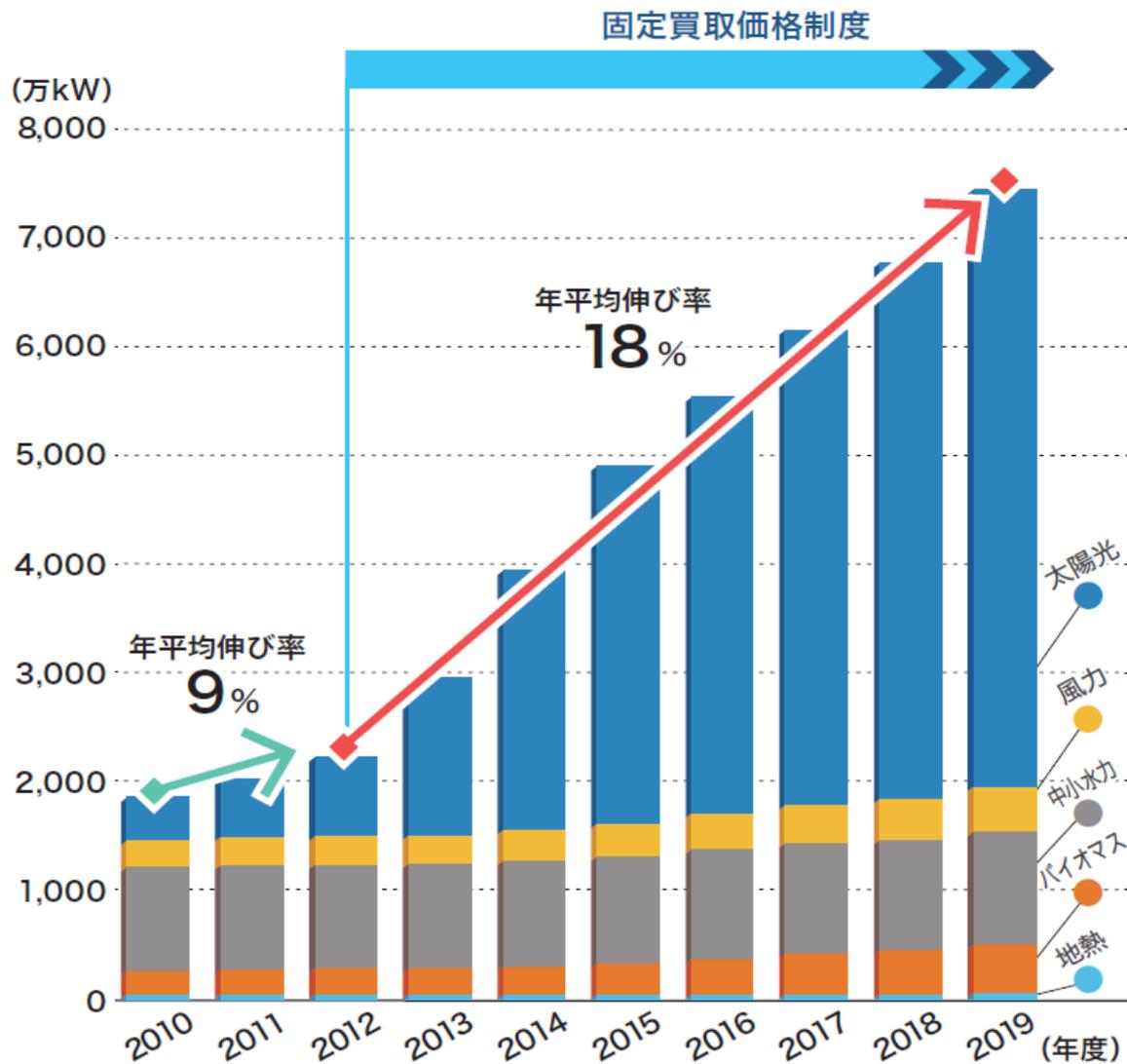
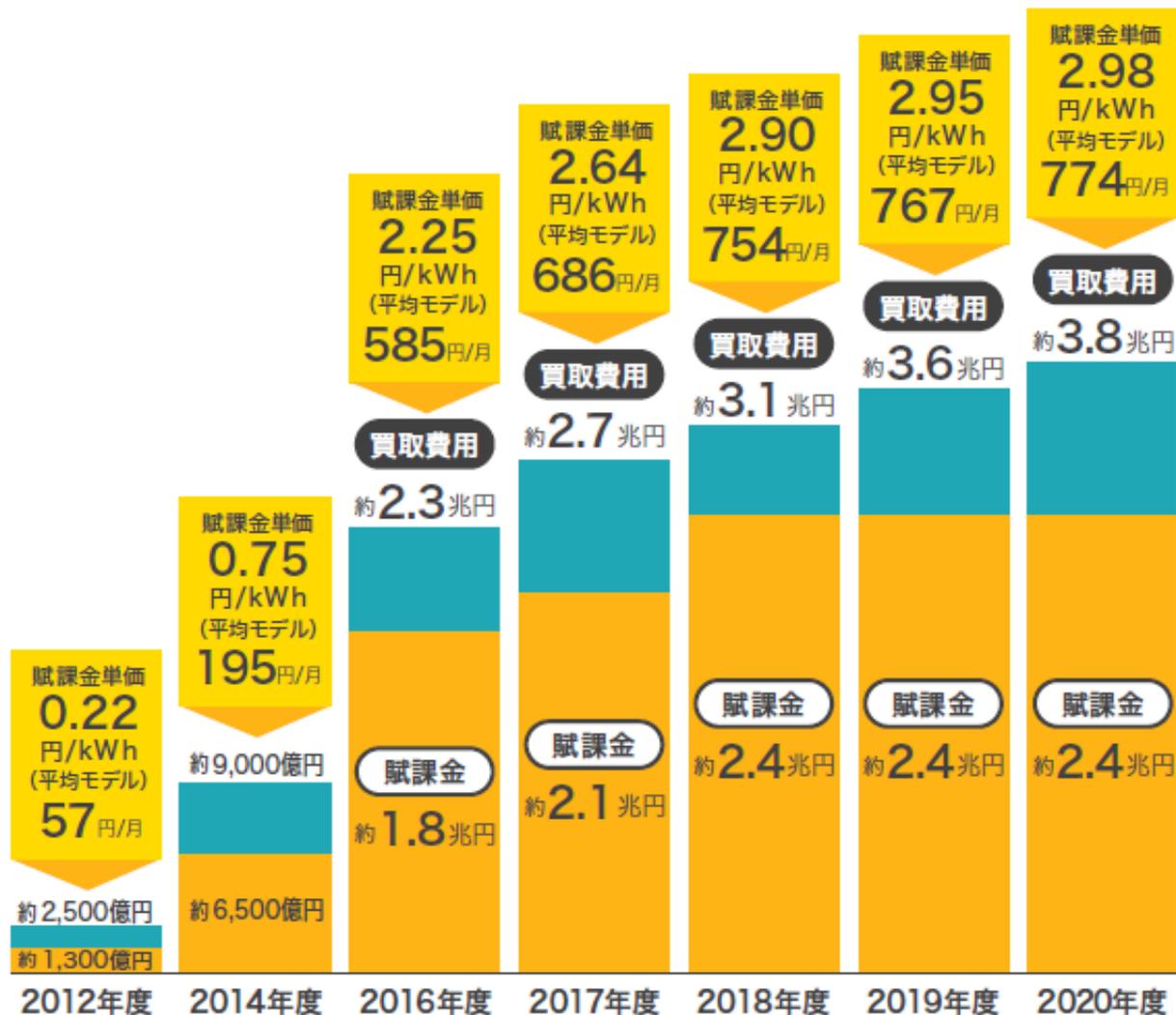


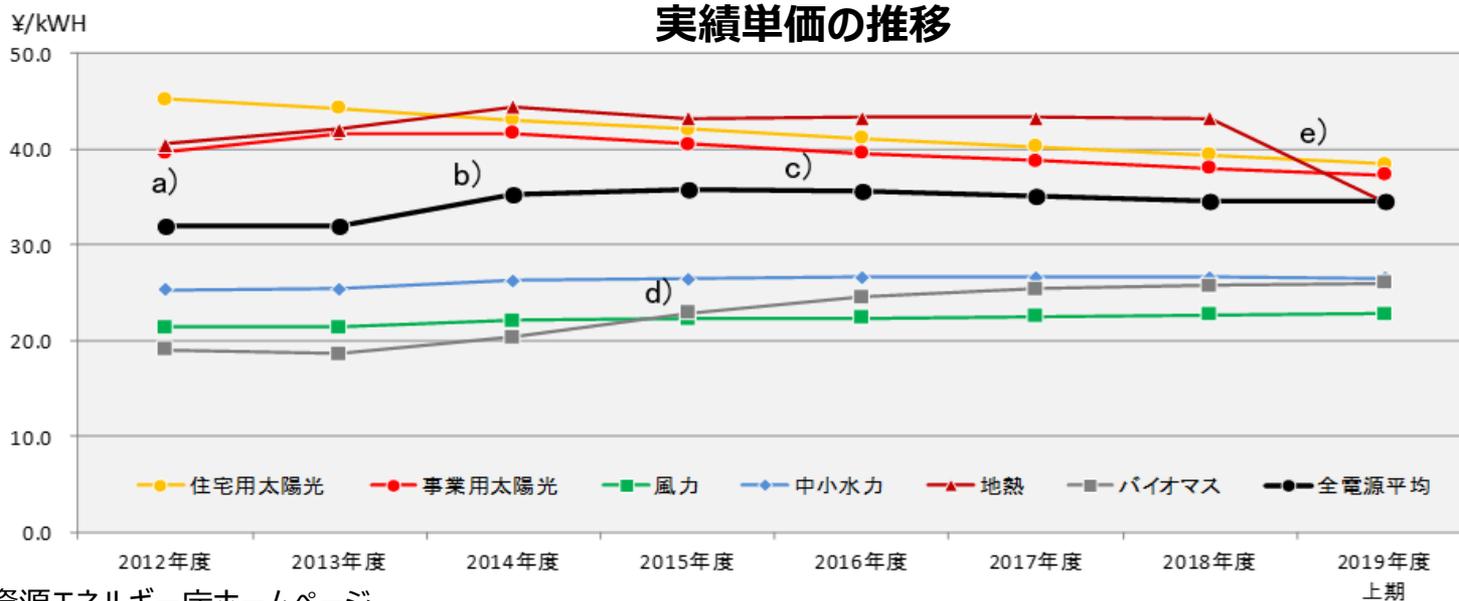
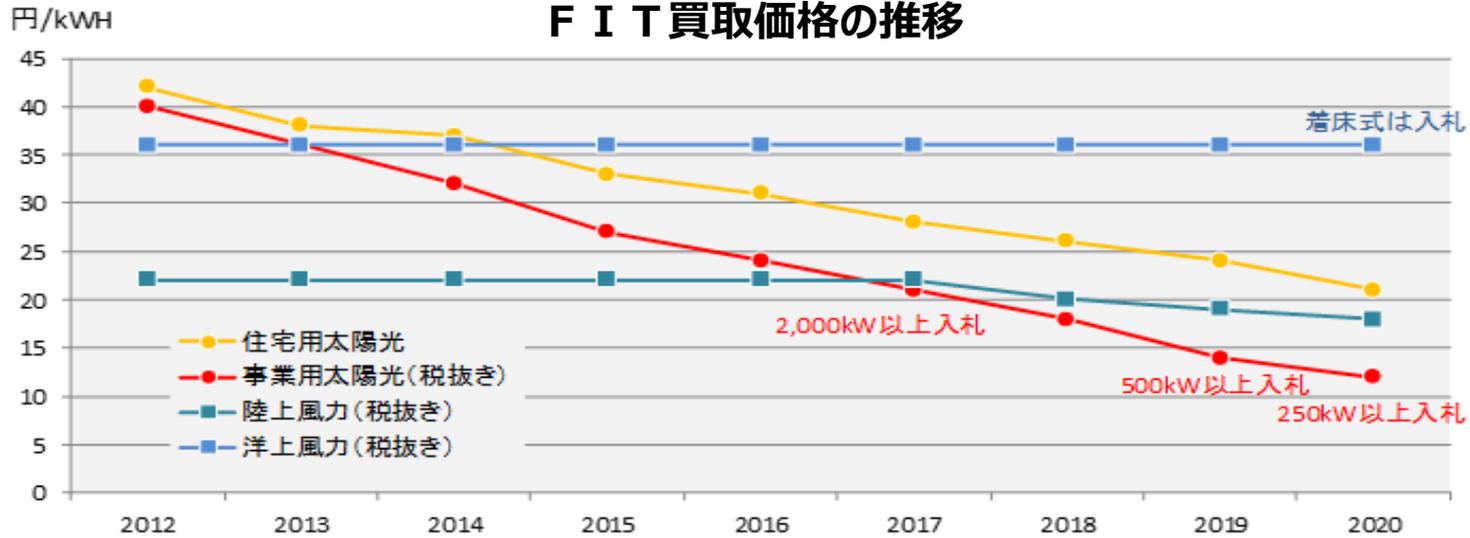
FIT（固定価格買取制度）により太陽光を中心に再エネが拡大



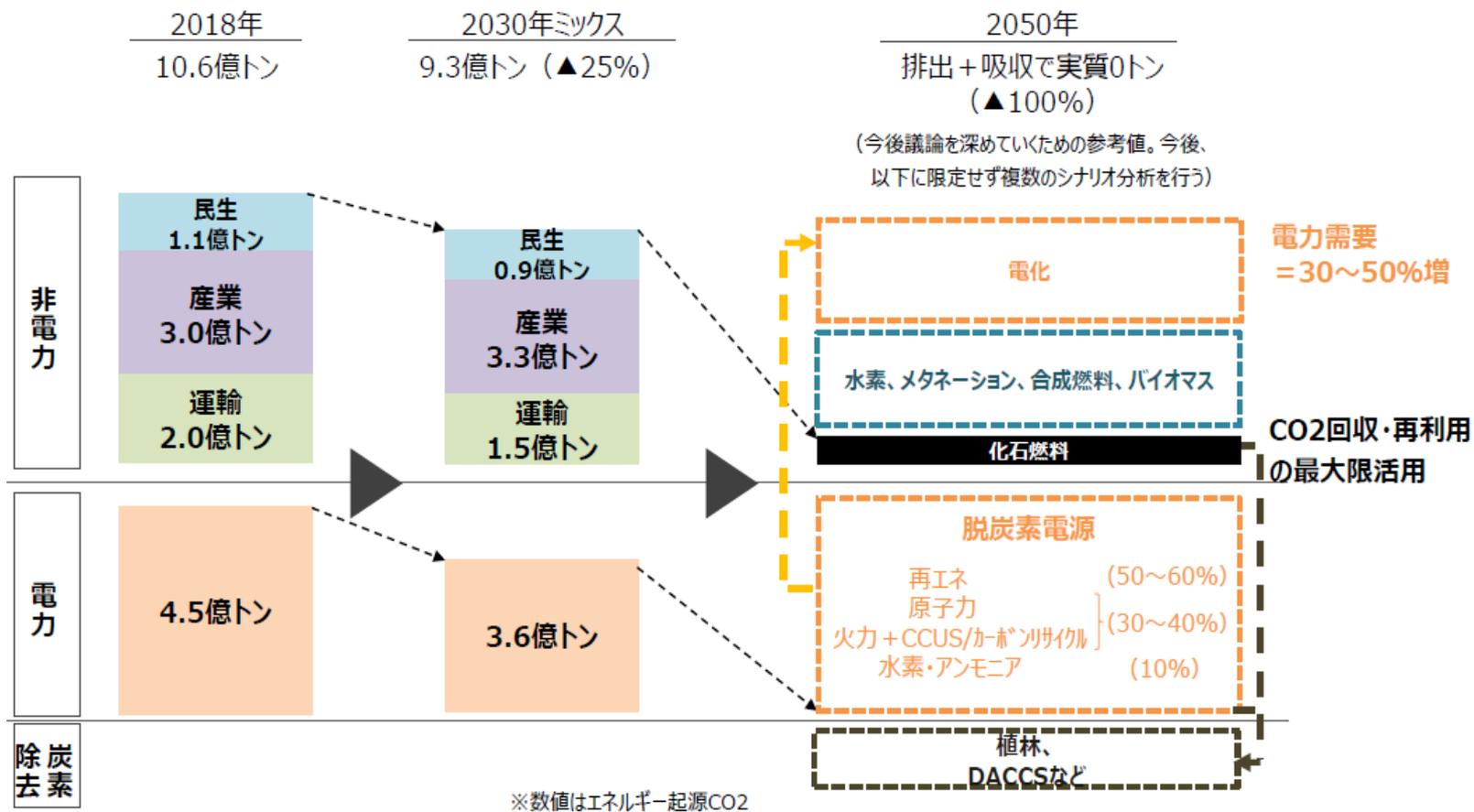
FITの買取費用総額は2030年に3.7~4.0兆円という 目標水準を超過



FIT買取価格は低減されてきたが、実績単価はほとんど下がっていない。全電源平均は制度導入当初より上昇



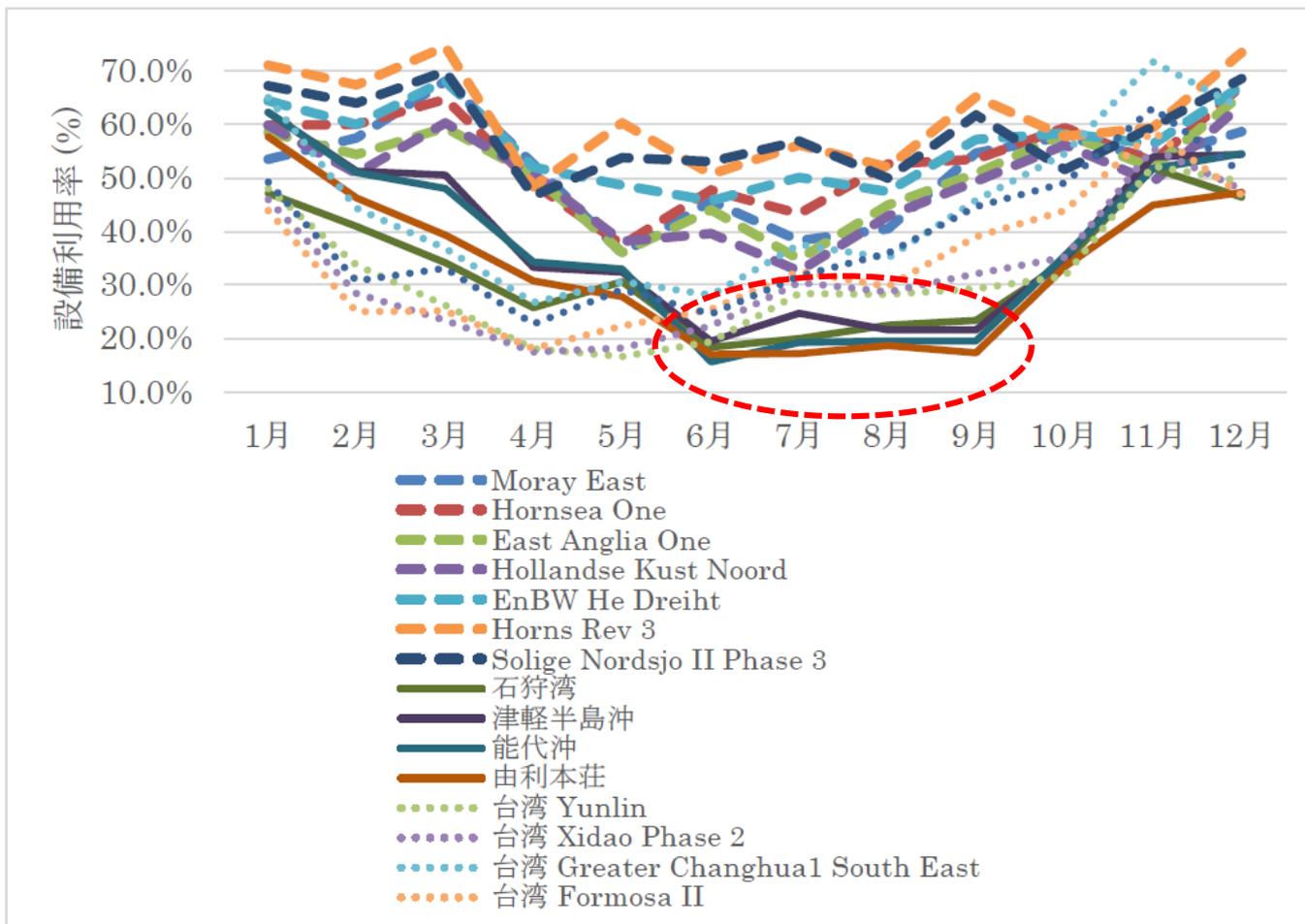
2050年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略には参考値とはいえ、再エネ50-60%や洋上風力2030年10GW、2040年30-45GWといった数値目標が含まれており、2030年ミックスに影響を与える可能性。



今後、エネルギー基本計画改定に向け、上記に限定せず、更に複数のシナリオ分析を行い、議論を深化

日本の風況は欧州と異なり夏に大幅に低下。日本の洋上風力の年平均設備利用率は約35%（欧州北海地域は約55%）

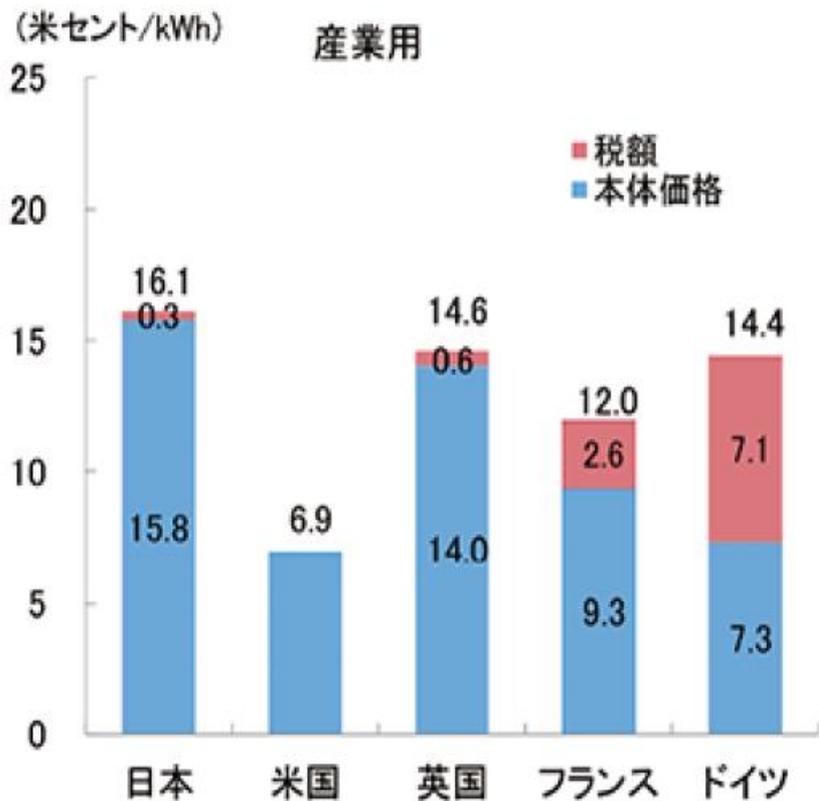
→ 日本の洋上風力事業の収益性は欧州を大きく下回り、国民や産業は欧州に比して7-9 円/kwh高い買取価格を負担せざるを得ない。



日本の産業用電力料金は主要国中、最も高い。

ドイツの電力多消費産業の電力料金は電気税、再エネ賦課金、洋上風力電力電網賦課金、託送料金等を大幅に減免されており、日本の電力多消費産業の負担額の2~2.5分の1

産業用電力料金の国際比較（2018年）



産業用電力料金の日独比較（2019年）

